

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会 毎年3月
基準日
期末配当金 毎年12月31日
中間配当金 毎年6月30日
その他必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
(連絡先) 東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
(郵送先) 〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

単元株式数 100株
公告の方法 電子公告により行いますが、事故その他やむを得ない事由によりできない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
(公告掲載URL)
https://www.tok.co.jp/company/public_notice.html

上場取引所 東京証券取引所 プライム市場
証券コード 4186

ご注意

- 住所変更、単元未満株式（100株未満の株式）の買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、当社定款の規定により、支払開始日より満3年を経過いたしますとお受け取りいただけませんので、お早めに最寄りの三菱UFJ信託銀行本支店でお受け取りください。

株式に関するお手続きについて

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先	
	証券会社等の口座に 記録された株式	特別口座に記録された 株式
■単元未満株式の買取・買増請求 ■住所・氏名等のご変更 ■配当金の受領方法の指定（注） ■マイナンバーに関するお届け・ご照会	口座を開設されている 証券会社等	左記の特別口座の 口座管理機関
■特別口座から一般口座への振替請求		
■支払期間経過後の配当金に関するご照会 ■郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ■株式事務に関する一般的なお問い合わせ	左記の株主名簿管理人	

(注) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として「株式数比例配分方式」をお選びいただけません。



IRメール配信を行っています。ぜひご登録ください。

<https://rims.tr.mufig.jp/?sn=4186> ▶▶▶

個人投資家説明会を開催

当社は、事業戦略・業績などの会社情報を株主や投資家の皆様にご理解いただくために、適時、適正、かつ公平な情報開示を徹底し、積極的なIR活動に取り組んでいます。当上半期は、個人投資家の皆様との対話の場所として大阪、東京、群馬、新潟で個人投資家説明会を開催し135名にご参加いただきました。下半期も開催を予定しております。

第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
決算発表			定時株主総会			第1四半期決算発表			第2四半期決算発表		
									第3四半期決算発表		
個人投資家向け会社説明会出展(随時)											

tok 東京応化工業株式会社
〒211-0012 神奈川県川崎市中原区中丸子 150 番地
電話 044-435-3000 (代表)



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



たかんぼさん 作 「華の太陽 太陽の華」



Paralym Art®
障がい者アートを応援しています

パラリンアートとは、障がい者アーティストの経済的な自立を目的とし、彼らのビジネス支援を行う活動です。

豊かな未来、社会の期待に化学で応える
“The e-Material Global Company™”

tok 東京応化工業株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの第95期上半期(2024年1月1日から2024年6月30日まで)の業績および今後の取り組みにつきましてご報告申し上げます。

代表取締役 取締役社長 種市順昭

Q1 当上半期における業績について教えてください。

当上半期における当社グループ製品の主な需要先であるエレクトロニクス市場においては、パソコンやスマートフォン市場の回復に加え、生成AI市場の拡大に伴い半導体需要は前年同期を上回りました。

このような情勢下、当社グループは2024年度を最終年度とする3か年の中期計画「tok中期計画2024」に掲げた全社戦略の推進に総力をあげて取り組んでまいりました。

まず、エレクトロニクス機能材料は、生成AI向けの需要増加等を背景にEUVレジストやパッケージ材料の売上が好調に推移したことに加えて、中国向けの需要が拡大しました。また、高純度化学薬品は、主にアジア地域におけるお

客様の稼働率が回復したことで販売は増加しました。

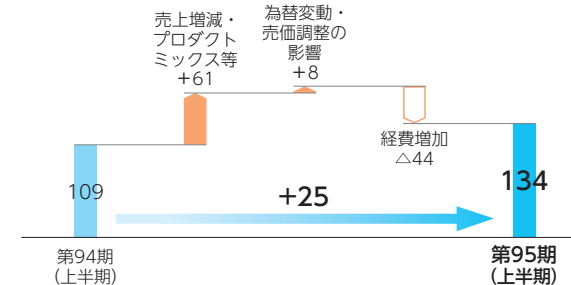
この結果、為替レートが円安に推移したこともあいまって、売上高は前年同期に比べ170億円増加し947億円(前年同期比22.0%増)となりました。

利益面においては、高付加価値製品の売上高増加に加え、前述の為替の効果により、営業利益は前年同期に比べ25億円増益し134億円(同23.3%増)、経常利益も前年同期に比べ23億円増益し141億円(同19.5%増)となりました。また、営業利益の増加や前年同期に計上したAIメカテック株式会社への装置事業の譲渡に伴う事業再編費用がなくなったことで、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期に比べ37億円増益し91億円(同70.7%増)となりました。

財務ハイライト

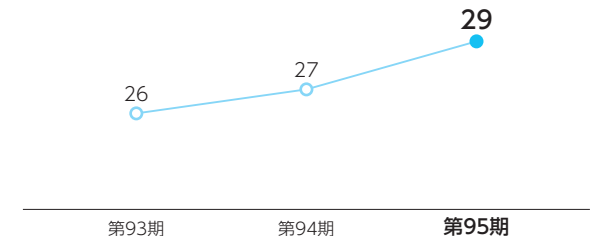
営業利益の増減内訳

(単位:億円)



中間配当金の推移*

(単位:円)



* 前期以前は株式分割後換算。1円以下は切り捨てて算出しています。

Q2 配当金については、いかがですか。

当期の中間配当金については、DOE(連結純資産配当率)4.0%を目途とする配当方針に基づき、前期中間配当金27円から2円増配し、1株当たり29円とさせていただきました。

※ 前期は株式分割後換算。1円以下は切り捨てて算出しています。

Q3 通期の見通しについて教えてください。

下半期においては、世界的に旺盛な生成AI関連需要の増加に加えて、中国向け需要拡大を想定しています。このような想定のもとで、お客様の稼働率回復に伴い、エレクト

ロニクス機能材料、高純度化学薬品ともに売上高が増加すると見込んでおり、当上半期の業績も勘案して、通期の業績予想を上方修正しました。

この結果、通期の売上高は前年に比べ311億円増加の過去最高となる1,934億円(前年比19.2%増)、営業利益は前年に比べ65億円増益の293億円(同29.0%増)、経常利益は前年に比べ61億円増益の304億円(同25.3%増)と過去最高に迫る利益を予想しております。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、営業利益の増加等により、前年に比べ70億円増益の過去最高となる198億円(同55.8%増)を予想しております。

株主の皆様のご期待に応えられるようグループ一丸となって邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



当社のウェブサイトでは2024年12月期第2四半期決算説明会の模様をご覧ください。

当社ウェブサイト

株主・投資家情報

IRライブラリ

<https://www.tok.co.jp/ir/library/2024>



「TOK Vision 2030」の実現に向けた戦略的投資

当社グループは、データ通信量の飛躍的な上昇、それを支える半導体の需要急増と市場規模の拡大など今後の市場環境等を鑑みて、2024年2月に長期ビジョン「TOK Vision 2030」の2030年度における売上高を2,000億円から3,500億円へと大幅に引き上げました。このような背景から、tok中期計画2024（2022年度～2024年度）で計画していた設備投資額を当初計画の450億円から569億円（計画）まで増額し、売上高3,500億円を支える生産体制の構築に向けて取り組んでいます。

TOK先端材料株式会社（韓国）

- 生産能力の向上を可能とする品質管理の増強投資を実施。
- 2023年12月 着工
2026年上期 稼働予定



TOK先端材料株式会社（韓国）

- 平澤市（京畿道）に新たな工場用地を取得。既存工場との相乗効果を最大化し、**将来的な事業拡大**に備える。
- 2027年 着工
2028年 操業予定



TOK/郡山工場

- 世界最高品質と高生産効率を実現する国内最大の**フォトレジスト新製造棟**を建設中。
- 2024年6月 着工
2026年下期 稼働予定



TOK/阿蘇工場 阿蘇くまもとサイト

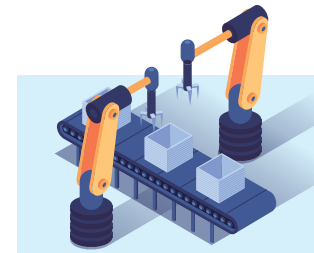
- 高純度化学薬品の**新たな製造拠点**を建設。
- 2024年6月 竣工
2025年上期 稼働予定



戦略的投資を進める一方、工場の老朽化や従業員の高齢化など生産現場で抱えるさまざまな問題を解決するために、DXを推進して生産拠点のリノベーションにも取り組んでいます。

なお、リノベーションは、グループ全体で最適な生産体制を構築していくために、主力工場に生産を集約させることで資産効率性を最大化する拠点集約型のフォトレジスト、お客様の傍で生産し、効率的に供給する地産地消型の高純度化学薬品といった2つの方向性から進めてまいります。

推進項目



- 高品質生産
- 自動化／省人化
- 合理的生産体制



- 生産効率アップ
- ワークシフト

継続性のある
生産体制

属人性の低い
生産体制

人や環境にやさしい
生産体制

当社グループが将来への積極的な戦略的投資を継続するには「キャッシュ創出力」が鍵を握ります。左のページにあるように大規模な設備投資を実施していく中で、増加していく減価償却費によって見えにくくなる「キャッシュ創出力」を明確にするために、KPIとしてEBITDAを取り入れています。2030年にはEBITDA 770億円を目指しています。

2030年における財務側面のKPI

キャッシュ創出力の最大化

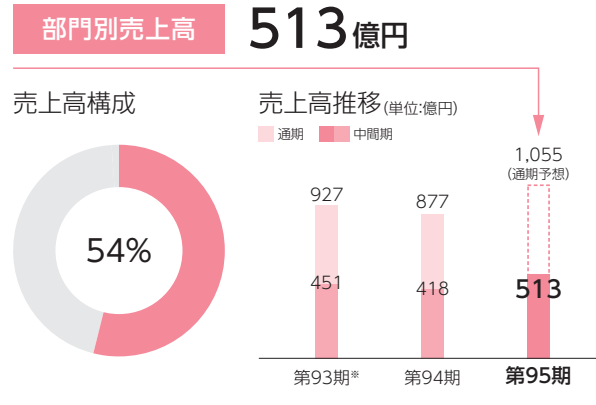
EBITDA（営業利益＋減価償却費）

770億円

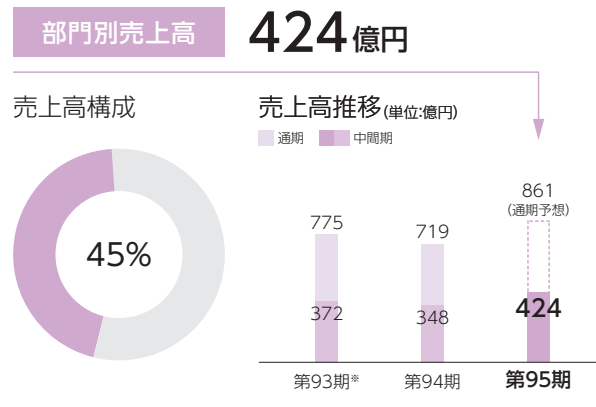
部門別営業の概況

売上高は、エレクトロニクス機能材料部門が前年同期に比べ95億円増収の513億円(前年同期比22.7%増)、高純度化学薬品部門も前年同期に比べ76億円増収の424億円(同21.8%増)となりました。これは、パソコンやスマートフォンの市場の回復に加え、生成AI市場の拡大に伴い、半導体需要が前年同期を上回ったことが主な要因です。

エレクトロニクス機能材料



高純度化学薬品



※ 第93期の売上高の金額については、セグメント開示の変更を遡って適用した後の金額を記載しております。

コラム

生成AI市場の拡大とともに広がる事業機会

生成AIを中心とした半導体市場の拡大に伴い、当社グループは、先端パッケージ向けのソリューションとして、ウエハを薄化して積層する三次元実装技術プロセス向けに独自のウエハハンドリングシステム(WHS)を開発し、同プロセス向けに、仮止め接着剤を供給していくことで事業機会を拡げてまいります。

三次元実装プロセス TSV

※TSV(シリコン貫通電極): 半導体チップを薄片化して積層し、貫通電極で相互のチップを接続する技術

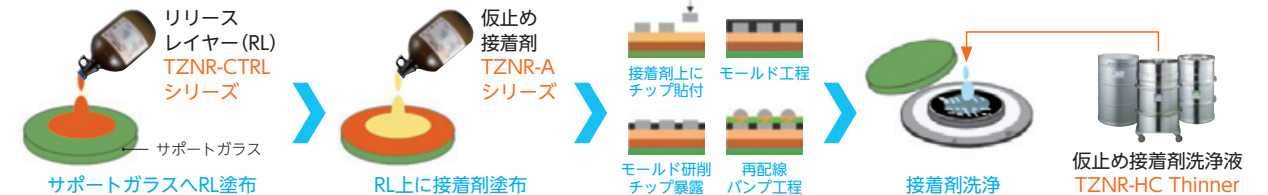
ウエハハンドリングシステムはウエハに仮止め接着剤、サポートガラスに剥離層のリリースレイヤー(RL)を塗布して、ウエハにサポートガラスを貼り付けます。裏側の処理(薄化、デバイス作成)後、サポートガラスを剥がし洗浄します。



三次元実装プロセス ファンアウト

※ファンアウト(FO): 半導体チップとプリント配線基板の間をつなぐ再配線層を、半導体工程を使って作る。チップの外側まで端子を広げることができる。

リリースレイヤー(RL)を塗布したサポートガラスに仮止め接着剤を塗布します。チップ貼付、モールド工程、再配線およびバンプ工程を経た後、サポートガラスを剥がし洗浄します。



tok

生成AI向け材料の
開発で優位性を構築

半導体後工程関連材料・WHS材料



仮止め接着剤
TZNR-Aシリーズ



リリースレイヤー(RL)
TZNR-CTRLシリーズ

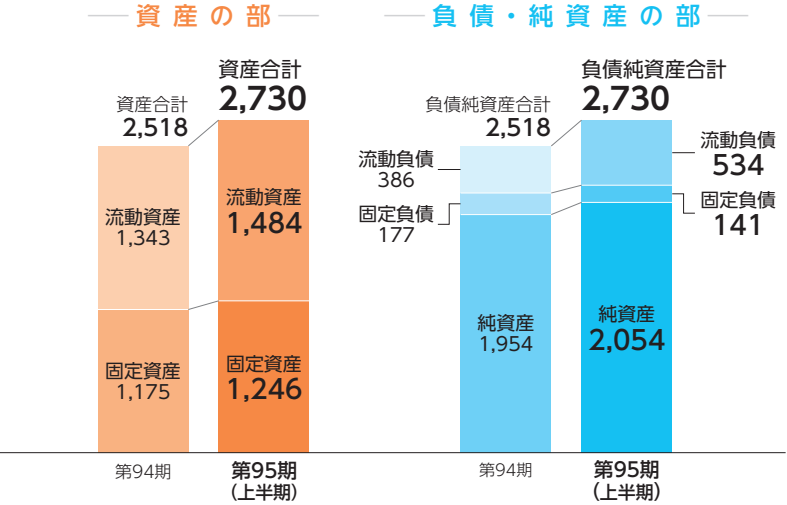


仮止め接着剤洗浄液
TZNR-HC Thinner

連結財務諸表

連結貸借対照表の概要

(単位:億円)



資産の部

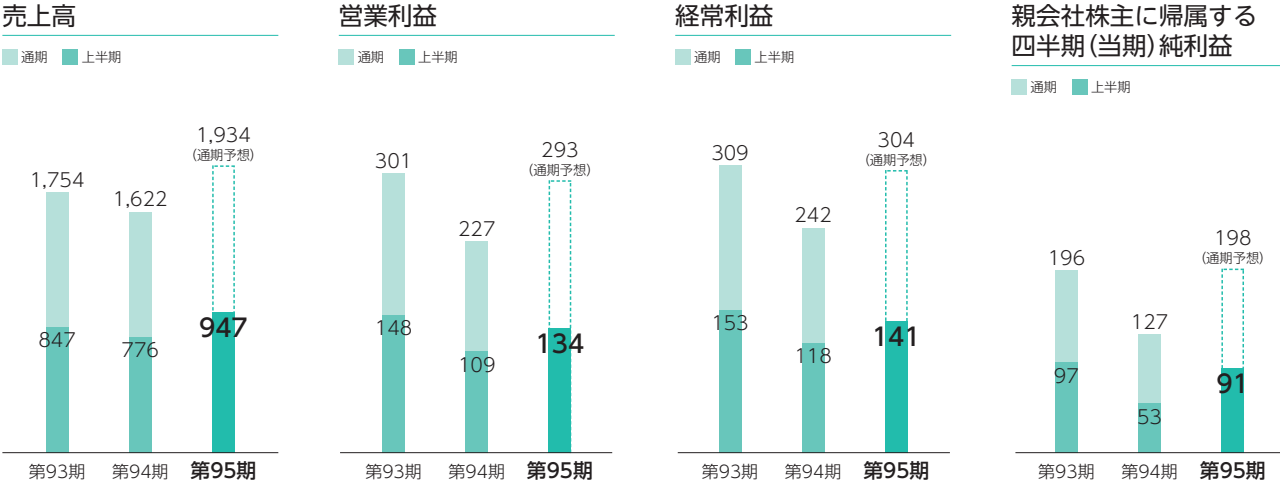
- ・現金及び預金、また受取手形及び売掛金がそれぞれ増加したことにより、流動資産が増加。
- ・設備投資により有形固定資産が増加したことにより、固定資産が増加。

負債・純資産の部

- ・支払手形及び買掛金、また未払法人税等がそれぞれ増加したことにより、負債合計が増加。
- ・期末配当金の支払いがあったものの、中間純利益の確保に加え、円安による為替換算調整勘定の増加により、純資産が増加。

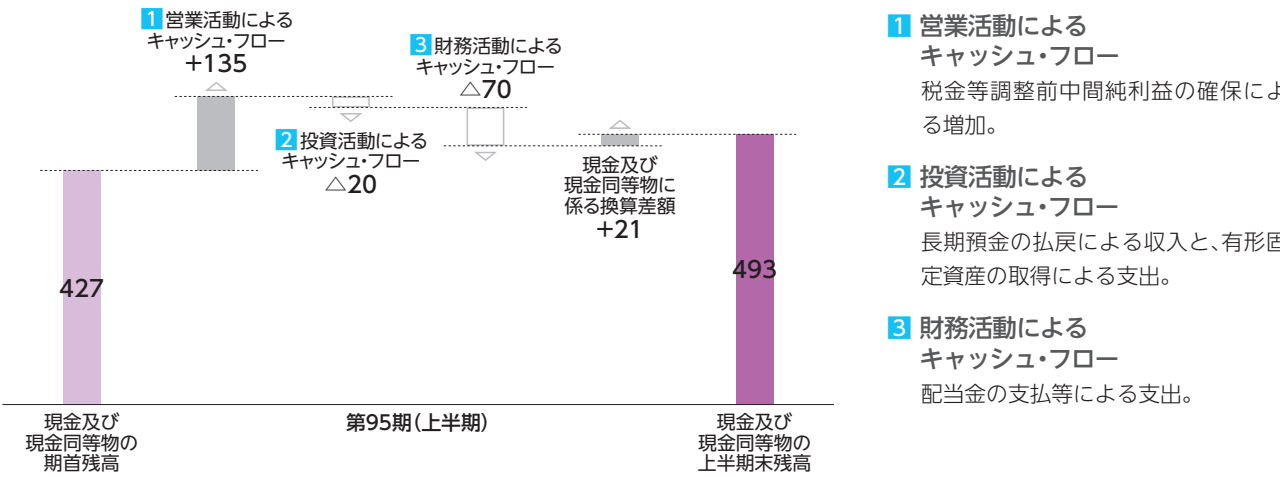
連結損益計算書の概要

(単位:億円)



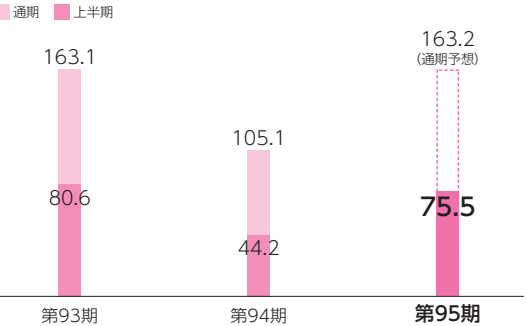
連結キャッシュ・フローの概要

(単位:億円)



1株当たり当期純利益

(単位:円)



※当社は、2024年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。第93期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しております。

自己資本比率

(単位:%)

